

攀

～想いを未来へつなぐ～

2025年度 卒業記念誌



一視同仁

～笑顔が満ち溢れるもりおか～



Junior Chamber International Morioka
一般社団法人 盛岡青年会議所

襷

～想いを未来へつなぐ～

盛岡青年会議所の歩みは、先輩方が挑戦と奉仕の中で築き上げた歴史と志の連続です。卒業生は、その道のりで多様な価値観に触れ、仲間と切磋琢磨し、まちのために尽力してきました。その背中は、私たち現役会員の目標であり道標です。

本テーマに込めた「襷」は、仲間と積み重ねた経験・感謝・情熱の象徴です。卒業は終わりではなく、次の走者へ襷を託す瞬間。受け取った私たちは、もりおかの未来のために動いていく組織として、力強く先輩方から受け継いだ想いをつないでいきます。卒業生のこれまでの歩みに深く感謝し、その志を私たち現役会員が引き継ぐ。それぞれの決意を表すテーマとして選定いたしました。

一般社団法人 盛岡青年会議所

2025年度 卒業式

次 第

■ 2025年12月6日(土)

●式典の部

盛岡グランドホテル 瑞雲

- ・開 会
- ・国歌斉唱
- ・JC ソング斉唱
- ・JCI Creed 唱和
- ・JCI Mission 並びに JCI Vision 唱和
- ・JC 宣言文朗読並びに綱領唱和
- ・東北JC 宣言唱和
- ・卒業証書授与並びに卒業生スピーチ
- ・送 辞
- ・答 辞
- ・閉 会

●懇親会の部

盛岡グランドホテル 飛龍

- ・開 会
- ・特別会員紹介
- ・理事長挨拶
- ・乾 杯
- ・歓 談
- ・記念品贈呈
- ・卒業生による企画
- ・若い我ら
- ・一発屋伝達式
- ・閉 会

目 次

1. JCI Creed・JCI Mission・JCI Vision	
JC 宣言・綱領・東北 JC 宣言	2
2. 卒業生の皆さまへ贈る言葉	3
3. 卒業生代表の言葉	4
4. 卒業生プロフィール	
阿 部 周 平 君	5
高 橋 敬 太 君	6
佐 藤 陽 一 君	7
藤 村 慶 太 君	8
越 場 慎 文 君	9
加 藤 巧 寛 君	10
佐 藤 志 学 君	11
照 井 淳 史 君	12
小野寺 竜 君	13
田 口 輝 君	14
石 井 優 宇 君	15
山 内 圭 介 君	16

JCI Creed

The Creed of Junior Chamber International

We Believe

That faith in God gives meaning
and purpose to human life
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise
That government should be of laws
rather than of men
That earth's great treasure lies in
human personality and
That service to humanity is the best
work of life

我々はかく信じる：

「真理は人生に意義と目的を与える
人類の同胞愛は国家による統治を超越し
公正な経済は
我々の自由な経済活動によってこそ果たされ
政府には人治ではなく法治が必要であり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最大の使命である」

JCI Mission

To provide leadership development
opportunities that empower young people
to create positive change

青年会議所は
青年が社会により良い変化をもたらすために
リーダーシップの開発と成長の機会を提供する

JC宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

JCI Vision

To be the foremost global network
of young leaders

青年会議所が
若きリーダーの国際的ネットワークを先導する
組織となる

綱領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

東北JC宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う



卒業生の皆さまへ贈る言葉

一般社団法人盛岡青年会議所 2025年度

理事長 松浦 直人

一般社団法人盛岡青年会議所2025年度卒業生の皆さま、ご卒業誠におめでとうございます。私たちが所属する盛岡青年会議所（以下、盛岡JC）は、1953年にこの地域の明るい豊かな社会の実現を願う志高き先人たちによって設立されました。以来、修練・奉仕・友情の三信条を掲げ、先人たちの紡いできた想いを受け継ぎながら、市民意識変革運動を展開してまいりました。卒業生の皆さまにおかれましては、活動の途中で様々な壁にぶつかり、悩むことも少なからずあったかと存じます。しかしながら、多くの仲間と助け合い、絆を深めながら、明るい豊かな社会の実現に向けて活動を続けてこられた皆さんに、心より感謝と敬意を表します。

JCでの活動は、決して平坦な道のりではありません。理想と現実のはざまで苦悩した日々、限られた時間の中で使命を果たそうと奔走した夜、仲間と語り合いながら明日の一歩を模索した瞬間。こうした一つひとつの経験が、確かに皆さまの中で志を形づくってきたのだと思います。

これまで先輩方がつないできた想いの「櫻」は、皆さまの手によってさらに力強く次の世代へと渡されようとしています。40歳という節目を迎え、卒業という新たな門出に立たれた今こそ、その志が地域のあらゆる場面で輝きを放つ時です。JCで培われたリーダーシップや行動力、そして何より仲間を思いやる心は、まさに地域の宝です。これからは現役時代に培った知見と経験を活かし、家庭や職場、地域社会の中で次の世代を導く存在として、その力を存分に發揮していただきたいと願っております。卒業は終わりではなく、新たな挑戦の始まりです。からの社会は、まさに変化の時代です。そのような中でこそ、皆さまの行動力と信念が、地域をより良い方向へ導く原動力となります。どうかその情熱を胸に、次のステージでも力強く歩みを進めてください。JCでの学びを礎に、より大きな舞台でご自身の志を実現されることを、心より期待しております。

そして、現役会員一同にとって、卒業生の皆さまの背中は常に目標であり、憧れであり、励みでもあります。先輩方が築かれた軌跡があったからこそ、私たちは今この場で活動を続けることができています。私たち現役会員も、皆さまから託された想いを胸に、それぞれの立場で地域の発展に尽力してまいります。からの盛岡JCが、皆さまの築かれた礎の上にさらに輝きを増していくよう、力を尽くしてまいります。その想いの「櫻」をしっかりと受け継ぎ、私たちもまた、未来へつなげてまいります。どうかこれからも、私たち後輩を温かく見守り、ときに厳しくご指導くださいますようお願い申し上げます。

結びに、これまで盛岡JCの発展のために尽力された皆さまのご功績に改めて深く敬意を表するとともに、卒業後の新たな人生が希望と喜びに満ちたものでありますよう、心よりお祈り申し上げます。本当におめでとうございます。



卒業生代表の言葉

2025年度 卒業生

田口 輝

今年は、12名が盛岡青年会議所（以下、盛岡JC）を卒業します。とうとうこの日を迎えるのかと思うと、とても感慨深いです。入会年度や入会に至るきっかけはさまざまで、さらに仕事も価値観も趣味もバラバラな12名の唯一の共通点といえば、「生まれた年」「もりおか」「青年会議所」の3つです。そんなバラバラな仲間でも、「明るい豊かな社会の実現」という共通の理想を追い求めることで一つになり、共に40歳まで駆け抜けることができました。

私たちは、JCの価値を“もりおか”というまちに示すために、厳しいタイムスケジュールの中で仕事と家庭を両立させ、時には寝る時間も惜しまず、議案と向き合い、自分と戦い、運動をつくってきました。JCに入会していくなければ出会わなかっただろう皆さんと共に、入会していくければ考えることもなかつたであろうさまざまな社会問題について深く考え、熱い議論を交わし、活動に励んできました。

思い描いた通りにできなかったこともあったかもしれない。仲間に上手に伝えられなかつたこともあつたかもしれない。多くの動員を図れなかつたこと也有つたかもしれない。孤独を感じたこともあつたかもしれない。仲間から責められたこと也有つたかもしれない。でも、それは失敗ではないのです。失敗とは、行動しないことです。

20歳から40歳。人生において最も働き盛りで、最も活発で、最も変化の多い時期。なぜ人生において大事なこの青年期に、私たちは「明るい豊かな社会」の実現のために多くの尊い時間を費やすことを選んだのか。それは、ゴールに向かって共に走ってくれる仲間がいたからです。必死な仲間の姿に心打たれて、自分も何か役に立ちたいと考えたり。惜しみなく汗を流す仲間の姿を見て、自分も負けじと頑張ったり。仲間の熱い想いに心動かされて、自分も大きな壁に挑戦したり。仲間の流す涙に秘められた想いから、多くの学びを得たり。共に走ってくれた皆さんの存在こそが、私たちが活動する最高のモチベーションであったことは間違ひありません。本当にありがとうございました。

私たちの未来は無限の可能性を秘めています。なぜなら未来は、私たちの今日の行動からつくられるからです。目の前に道がないのなら、道をつくればいい。目の前に立ちはだかる壁があるのなら、その壁を壊せばいい。私たち青年は、前に進むのみです。自分が入会した時には、そんなこと考えもしなかった。これらはすべてJC活動の中で、皆さんに教えてくれたことです。私たちはこの素晴らしい団体で、個性豊かな仲間たちから、たくさん気づきと学びと笑いをいただき、かけがえのない時間を過ごすことができました。

1985年（昭和60年）生まれ、丑年の12名は、多くの学びと挑戦の機会を与えてくださった先輩方への感謝と、これから盛岡JCを担ってくれる後輩たちへの感謝を胸に、本日、盛岡JCを卒業します。今後も「一視同仁」という言葉を胸に刻み、新たなステージで活躍することを誓い、卒業生代表の挨拶とさせていただきます。皆さま、今まで本当にありがとうございました。



阿部 周平

会社名
(有)内丸ビル



青年会議所活動を振り返って

私が盛岡青年会議所（以下、盛岡JC）に入会したのは2023年9月。藤原先輩に紹介していただき入会しました。入会当初は「自分にできるだろうか」という不安もありましたが、新しい出会いや経験への期待もありました。実際に活動が始まると、会議の時間も長く大変と思うこともありましたが、その分だけ充実した日々を送ることができました。

特にJC活動で印象に残っているのは、2024年度の国際社会創造委員会で行ったマレーシアのペナン島のペナンJCとのオンライン交流です。ゼロからの関係づくりは苦労も多かったですが、異なる地域の仲間と意見を交わすことができた貴重な経験でした。また、台湾の羅東青年商會との相互交流も忘れられません。2024年度の羅東訪問時のおもてなしに感動し、翌年は盛岡でその感動をお返ししたいという思いで一生懸命準備しました。

そして、2年間共に活動した小田島賢太郎君との出会いも大きな財産です。年下ながらも行動力とユーモアに溢れ、常に前向きに導いてくれる姿に強く刺激を受けました。JC活動を通じて「まずやってみよう」という気持ちが芽生え、挑戦する姿勢が自分の中で確実に育ったと感じています。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

盛岡JCでの活動を通して、最も大きな学びは「視野の広がり」でした。入会前は自分の職業に関わる人との関係が中心でしたが、JCでは業種や年齢を超えた多くの方と出会い、考え方の幅が大きく広がりました。困ったときや新しいことに挑戦するときに、その人脈が思いがけない形でつながることもあり、人の出会いの大切さを実感しました。



JCプロフィール

- '23 会員開発委員会 委員
'24 國際社会創造委員会 副委員長
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生
'25 國際社会創造委員会 委員
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾幹事



出会いの大切さといえばマレーシア・ペナンJCとのつながりはJC活動によって経験できた素晴らしい経験でした。2025年には実際にペナンの地に訪問して文化や考え方方に触れたことで、海外という新しい世界を肌で感じることができました。この経験は自分の中で大きな転機となり、「挑戦することの大切さ」を再認識しました。

盛岡JCのメンバーは、地域をより良くしたいという強い想いとバイタリティーに溢れています。長い歴史の中で培われた伝統や思いがしっかりと受け継がれており、横のつながり、縦のつながりが非常に強いと感じます。JCで得た人との関わり方や多様な視点は、今では仕事や家庭でも活かされています。もし入会していなければ、このような経験や学びは決して得られなかつたと思います。

現役会員へのメッセージ

卒業を迎えるにあたり、私のJC生活は約2年という短い期間でした。正直、もう少し長く活動したかったという思いもあります。しかし、期間の長さではなく、その中でどれだけ真剣に関わり、どれだけ多くの人とのつながれたかもとても大切だと感じています。短い時間でも熱心に取り組めば、多くの学びや出会いを得ることができる——それを実感した2年間でした。



現役の皆さんには、ぜひ「誘われたらやってみる」気持ちを大切にしてほしいと思います。私自身、右も左も分からぬ中で副委員長を任せられた経験があります。大変なことも多かったですですが、その挑戦が自分を大きく成長させ、今でも強い絆として残っています。やってみることでしか得られない学びや人とのつながりが、きっと人生の糧になります。

JCの活動は、私にとって本当に楽しく、かけがえのない時間でした。夜遅くまでの会議や準備も含め、すべてが貴重な経験であり、仲間と共に過ごした時間は何にも代えがたい宝物です。これからも盛岡JCが挑戦と成長を重ね、地域をより良くする存在であり続けることを心から願っています。



高橋 敬太

会社名
高橋けいた事務所



青年会議所活動を振り返って

2年半、盛岡JCのメンバーとして活動させていただき、多くの方々にお世話になりました。たくさんの学びの機会をいただき、一緒に過ごしました。皆さまに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

私は地域のための活動を通して人脈を広げたいと思い、同じ矢巾町の竹花寛幸先輩の紹介で入会させていただきました。1年目は何もわからない中で当時の北條宏委員長のサポートのおかげで正会員となることができました。卒業式のムービーを連日深夜まで一緒に作成したことは良い思い出です。ありがとうございました。

2年目の2024年度は山内圭介理事長に事務局次長として理事メンバーに入れていただきました。理事会を設えることで盛岡JC全体を知ることができとても貴重な経験となりました。そして同じ事務局として一緒に活動をした宮澤貴明局長、齊藤大輝次長、森達貴次長には負担をかけてしまい申し訳ありませんでした。ありがとうございました。齊藤大輝君、今度柳家に行くときは私も誘ってください。

3年目の2025年度は松浦直人理事長のもとで私が1番携わりたかった次世代育成委員会をやらせて頂きました。委員会メンバーにも恵まれ、特に木津川隼己委員長、小野寺竜副委員長、野中雄太幹事の3役はとても頼もしかったです。おかげさまでとても充実したラストイヤーを過ごすことができました。内沢君、晴山君、村上君、一緒に活動できて良かったです。ありがとうございました。



多くの出会いに感謝しています。ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

JCとどのように関わるかは人それぞれですが、活動しないと何も生まれません。そして仲間と一緒に活動することで多くの経験を得ることができます。

私が盛岡JCの活動を通して得たものは、おかげさまで盛岡JCでも友達がたくさんできました。

学んだことは、無理をすること。何とかすること。事業は背景目的手法。そして検証をしっかり行い次年度へつなげること。みんな大変な思いをしていること。それでも笑えること。仲間はいいなということ。



JCプロフィール

- | | |
|-----|---------------------------------------------------------|
| '23 | 会員開発委員会 委員 |
| '24 | 事務局次長
未来構想特別委員会 委員
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生 |
| '25 | 次世代育成委員会 委員
岩手ブロック協議会 連携推進委員会 委員長 |



現役会員へのメッセージ



まだ理事を経験されていない方はぜひ理事構成メンバーとして盛岡JCに参画して頂きたいです。盛岡JCの活動の全てを見る事ができ、盛岡JCの素晴らしい実感できると思います。そして盛岡JCがどんどん自分事となり楽しく活動ができると思います。それぞれ仕事や家庭の兼ね合いがあると思いますが、40歳までですので少し無理をして挑戦してみてください。

役を頂いている方々には組織のあり方や運営方法を時代や社会的な背景に合わせて柔軟に変えていくべきところは続けるべきところは変える。また他LOMでの良い取り組みを積極的に取り入れるなど盛岡JCをより良い組織へ発展させ続けてください。もりおか広域の連携もずっと想い続けてほしいと思います。盛岡は他の自治体と比べようもないくらい盛り上がっています。盛岡以外の住民の意識改革やリーダーの育成が求められているように感じます。各自治体職員にも賛助会員として盛岡JCに向かってもらうなど新しい関係の創出に期待しています。

長々とお願いのようになってしましましたが、これから皆さまの益々のご活躍を祈念し、私からのメッセージとさせていただきます。これからも応援しています。





佐藤 陽一

会社名

2WAY(株)

JC プロフィール

- '23 | 会員開発委員会 委員
'24 | 会員拡大委員会 幹事
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生
'25 | 國際社会創造委員会 委員



青年会議所活動を振り返って

青年会議所（以下、JC）に入会したきっかけは、お世話になっている方が盛岡JCの卒業生で、その方に勧められたことでした。正直、最初は深く考えもせずに入会しました。ところが初めての委員会訪問で突然「JCI Creed」という呪文のようなものを唱え始めるのを見て、「これは一体何なんだ」と驚いたのを今でも覚えています。

そんな不思議なスタートでしたが、仲間とともに事業に取り組むうちに、その不思議さがどんどん楽しさに変わっていきました。同じ目標に向かって動く仲間と過ごす時間が純粋に楽しく、「この仲間のために自分も力になりたい」と思えるようになりました。



それまでの私は、自分の会社や自分自身のことしか考えていませんでした。しかし、JCでの活動を通して「地域」という視点が生まれ、自分の住む場所に少しでも変化を起こしたいと思うようになりました。この経験こそ、私の中で最も大きな変化であり、JC活動を通じて得た何よりの財産だと思っています。



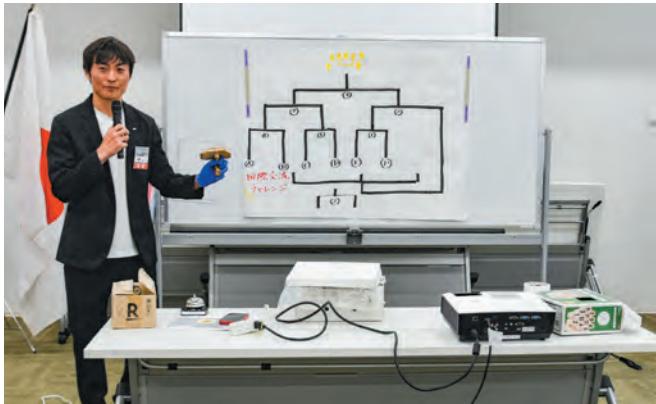
盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

盛岡JCのメンバーには、自己成長への意識がとても高い人が多いという印象を持っています。自分の仕事をしっかりとこなしながらも、JCの活動にも全力で取り組む姿勢に、いつも刺激を受けてきました。絶対に忙しいはずなのに、寝る間も惜しんで準備や議論を重ね、誰一人手を抜かない。そんな仲間の姿を見て、自分はまだまだ限界を決めていたんだと感じたことを今でも覚えています。

彼らの「命を燃やして活動する姿」に触れるたびに、自分も頑張らなければという気持ちが自然と湧き上がりました。そしてその中で、自分にとって大きな学びとなったのは、限界を決めない姿勢と、仲間と支え合うことの大切さです。どんなに苦しい時でも、仲間が話を聞いてくれ、支えてくれる。そんな人間関係が今でも続いていることに、心から感謝しています。盛岡JCで出会った仲間は、人生の宝です。



現役会員へのメッセージ



JCで出会った仲間たちは、おそらく一生の友になると思います。その仲間たちと一緒に活動する時間は、何より大切にしてほしいです。そして、その時間を作ることに優先順位を高く置くべきだと私は考えます。

また、盛岡JCには、これまでのやり方をただ繰り返すのではなく、新しいことを創り上げ、地域に新しい風を吹かせる存在であってほしいと期待しています。新しい挑戦や事業は、地域に変化をもたらし、自分自身の成長にもつながるはずです。現役の皆さんには、仲間と共に過ごす時間を大切にしつつ、新しい風を生み出す挑戦を続けてほしいと心から願っています。これからも盛岡JCの活躍を楽しみにしています。





藤村 慶太

会社名

藤村慶太土地家屋調査士事務所



青年会議所活動を振り返って

「陰キャでコミュ症」という自覚を持つ私が、2022年に盛岡青年会議所（以下、盛岡JC）の門を叩いたことは、大きな挑戦でした。入会初年度、会員開発委員会での温かいフォローが、不安でいっぱいの私のJC生活の第一歩を支えてくれたことに心から感謝しています。翌2023年は、JCプランディング委員会で活動。仮会員オリエンテーションの設営や広報誌の取材など、普段の私では決して経験し得ない「場」を与えていただきました。人前で話すこと、人に取材すること。全てが緊張の連続でしたが、この経験が少しずつ私の殻を破るきっかけとなりました。2024年、まちの未来創造委員会では、グルメフェスティバルやさんざ踊りといった大規模イベントの設営に参加。熱気の中で体を動かし、仲間と一つの目標に向かうことで、内向的だった私が少々ポジティブな人間になれた気がします。卒業の年である2025年は、組織力向上委員会に所属しました。例会や委員会にあまり参加できなかったことは心残りですが、絶え間ないフォローのおかげで、私は卒業までたどり着くことができました。盛岡JCでの活動は、私に様々な「機会」と「出会い」を与えてくれました。内気な私でも居場所と成長を与えてくれたJCは、まさに魅力ある団体だと確信しています。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

盛岡JCでの活動を通して学べたことは、「人は機会を与えられることで、想像以上に変わることができる」ということです。入会当初、私は自分のことを「陰キャでコミュ症」と決めつけていました。しかし、JCはそんな私に、一步踏み出すための様々な「可能性の場」を与えてくれました。

特に印象深いのは、2023年JCプランディング委員会での広報誌の取材活動です。初対面の方にアポイントを取り、話を聞き出すという作業は、



JCプロフィール

- ‘22 会員開発委員会 委員
- ‘23 JCプランディング委員会 委員
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 勉生
- ‘24 まちの未来創造委員会 委員
- ‘25 組織力向上委員会 委員

当時の私にとって非常に高い壁でした。しかし、委員長や仲間のサポートのおかげで、一つひとつ壁を乗り越えるたびに、「自分にもできるかもしない」という小さな自信が積み重なっていきました。



また、2024年のまちの未来創造委員会での大規模イベントの経験は、地域を動かす「熱量」と、仲間と一緒に成し遂げる「達成感」という、社会人として非常に貴重なものを教えてくれました。さんざ踊りの熱狂の中で感じたアドレナリンは、私の中に眠っていたポジティブな側面を引き出してくれました。JC活動は、入会しなければ絶対に経験することのなかった「非日常」の連続でした。臆病だった私を、少しでも前向きな人間に変えてくれた盛岡JCに、深い感謝と敬愛の念を抱いています。

現役会員へのメッセージ



卒業を迎えた今、現役会員のみなさまに心から伝えたいメッセージは、「JC活動は、与えられた機会に真摯に向き合って、必ず自分自身の成長につながる」ということです。私自身、当初は委員会や例会になかなか馴染めず、参加できない時もありました。特に2025年、森委員長率いる組織力向上委員会ではご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。それでも、最後まで組織に留まり、卒業を迎えることができたのは、温かいフォローと組織の絆があったからです。この経験から、「組織力」とは、ただ出席率が高いことではなく、一人ひとりを気遣う「人のつながり」だと強く感じました。現役メンバーのみなさまには、この盛岡JCという「人を変える力を持つ団体」の可能性を信じ、どうか挑戦を恐れず、目の前の機会に飛び込んでいってほしいと願っています。苦手意識があつても、不安があつても、委員会活動やイベント設営という共同作業の中で、あなたの熱意は必ず仲間に伝わり、力となって返ってきます。

みなさまの情熱と行動力で、このまちの未来を、そしてJCの未来を、より明るく輝かせてください。陰ながら応援しています。ありがとうございました！



越場 慎文

会社名
桜心警備保障(株)



青年会議所活動を振り返って

青年会議所（以下、JC）に入会してから、最も大きく変わったのは“仕事の向き合い方”でした。普段の職場では自分の業務に集中しがちですが、JCでは立場や業種の異なるメンバーと議論を重ね、ひとつの目標に向かって行動する経験を重ねました。そこで学んだ「相手の立場を理解する力」と「目的から逆算して考える力」は、リーダーとしてチームを導く上で大きな財産となりました。



家庭を支えながら、仕事とJCの両立を図るのは決して容易ではありませんでした。限られた時間の中で成果を出すためには、優先順位の明確化と人への信頼が欠かせません。その経験を通じて、部下への任せ方やチーム全体のモチベーション管理も自然と身についたように思います。

JCで出会った仲間は、業種も年齢も異なりますが、共通して“地域を良くしたい”という志を持っています。その姿勢に刺激を受け、自分の仕事も「お客様や地域の幸運につながるもの」として誇りを持てるようになりました。JCでの学びは、今も私の仕事の軸として生き続けています。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

盛岡JCに入会して感じたのは、「このまちの未来を本気で考える人たちが、ここにはいる」ということでした。職業も立場も違う仲間が、それぞれの時間を削ってまで活動に取り組む姿に、心から刺激を受けました。もし入会していないければ、こんなにも多様な価値観に触れる機会はなかったと思います。

活動の中で特に印象に残っているのは、まちづくり事業を通じて地域の方々と直接関わった経験です。机上の計画では見えなかった“現場の声”を知り、「自分たちの行動が地域に与える影響」を実感しました。その経験が、仕事でもチームを動かす際に“人の想いに寄り添うこと”的大切さを教えてくれました。



JCプロフィール

- ‘22 会員開発委員会 委員
- ‘23 JCプランディング委員会 委員
組織拡大特別委員会 委員
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生
- ‘24 國際社会創造委員会 委員
- ‘25 國際社会創造委員会 委員



JCで得たものは、スキルや知識だけではありません。仲間との信頼関係、困難を乗り越える力、そして自分の限界を超えて挑戦する勇気。盛岡JCで過ごした時間は、私の人生をより豊かにしてくれたと心から感じています。これからも、このまちの未来を想いながら、OBとしてその志を次世代へつなげていきたいと思います。



現役会員へのメッセージ

現役の皆さん、日々の活動本当にお疲れさまです。私自身、家庭と仕事に追われながらJC活動を続ける中で、思うように結果が出なかったり、自分の存在意義に悩んだ時期もありました。けれど、今振り返るとそのすべての経験が、自分を鍛え、支えてくれた仲間への感謝を深める時間だったと感じています。

JCは、まちのために行動する場であると同時に、「自分を成長させる最高の環境」です。任された役割に全力で向き合うことで、自然とリーダーシップや人間力が磨かれます。そして、その経験は必ず仕事や家庭、地域社会で生きてきます。

どうか、今この瞬間の苦労や葛藤を恐れず、仲間を信じて前に進んでください。盛岡JCには、皆さん一人ひとりの可能性を広げる力があります。私たち卒業生は、これからも陰ながらその挑戦を応援しています。どうか胸を張って、盛岡の未来を担うリーダーとして、次の世代へバトンをつないでいってください。



加藤 巧寛

会社名

加藤総合企画(株)
土地家屋調査士加藤巧寛事務所



青年会議所活動を振り返って

2022年、新年交賀会へのオブザーブ出席から私のJAYCEEとしての歩みが始まりました。入会当初は同期4名でしたが、年末には27名という心強い仲間たちに出会うことができ、JC生活の大きな財産となっています。入会してすぐに驚いたのは、複数の事業が並行するタイトなスケジュールと、2022年会員開発委員会の中嶋政裕委員長による事業準備の入念さ、そして新入会員の意見を取り込む懐の深さです。この経験から、委員長職の重責を痛感し、自らの未熟さを知り、自己成長への意識が強く芽生えました。



2023年はLOMでの活動に加え、岩手ブロック協議会、JCI日本への出向と三つの活動を同時に進める中で、活動の意義と家庭との両立の難しさに直面しました。このバランスの悩みを経験したこと、活動の意義と家族への感謝、そして時間の使い方への責任感を深く学ぶことができました。

2024年はまちの未来創造委員会にて高見謙輔委員長のもとで幹事を務め、委員会出席者が少ない中でも、事業本番ではメンバー全員が協力し、事業を完遂する一体感を味わうことができました。また、能登半島地震発生時にはJCI日本の国土強靭化委員会に出向中だったため、現地入りした舛澤佑太VCを微力ながら支え、JCが果たすべき使命を肌で感じました。

2025年は活動への積極的な参加が難しい状況でしたが、同期である地域開発委員会の宮澤貴明委員長の奮闘に触発され、最後まで組織に携わることができました。困難な時期こそ、仲間と組織の魅力に助けられ、成長の機会に変わると実感しています。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

盛岡JCでの活動は、「地域」と「全国・世界」という二つのスケールでの貴重な経験を与えてくれました。

特に、2023年のJCI日本への出向は、入会しなければ決して得られなかった機会でした。川村芳仁VCのもと、主権者意識向上委員会ではデジタル選挙の推進を掲げ、サマーコンファレンスでは当時デジタル大臣の河野太郎氏をお招きし講演・ディスカッションを実現しました。また、「全国高校生策甲子園」を国会議事堂で執



JCプロフィール

- '22 会員開発委員会 委員
- '23 次世代育成委員会 委員
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 執生
- '24 JCI日本 国家グループ 主権者意識向上委員会 委員
まちの未来創造委員会 幹事
- '25 JCI日本 地域開発委員会 委員
社会グループ 国土強靭化委員会 委員

り行うなど、JCの持つ組織力と影響力の大きさを肌で感じました。私自身はオープニングムービーの絵コンテを未経験ながら担当させていただき、大きな舞台で形になった達成感を覚えました。毎月全国各地で開催される委員会に参加し、そこで歓迎を受け、地元とは違う仲間たちと交流した経験は、私にとって大きな喜びでした。

一方、地域に根差した活動として、盛岡さんざ踊りへの参加は、私の盛岡への想いを大きく変えました。他県出身であるため、どこか盛岡を外から見ている感覚がありました。しかし、2ヶ月の練習会と本番の熱気を通じて、ようやく「盛岡の一員になった」という強い実感を抱くことができました。JC活動は、日本の未来を語るスケール感と、自分が住むまちに深く根を下ろす一体感を同時に経験できる魅力に満ちています。



現役会員へのメッセージ

卒業を迎えた今、現役会員の皆さんには、JCが提供するスケール感とチャンスを最大限に掴み取ってほしいと強く願っています。

特に、姉妹JCである台湾・羅東への渡航は、ぜひ一度は経験してほしい機会です。言葉の壁を越えた歓迎と、心からのもてなしを受けた経験は、国際的な交流の持つ力を実感しました。また、京都会議、サマーコンファレンス、全国大会などの本会の大規模な大会へは、設営側としてだけではなく、一般会員として参加して知見を広げてください。そこで得られる新たな気づきは、必ずや自己成長の糧となり、共に参加した仲間との絆を一層強固なものにするでしょう。



メンバーの頑張りに勇気づけられたり、困難な状況を乗り越える経験が、後になってかけがえのない思い出や財産へと変わります。

現役の皆さんには、この盛岡JCが持つ可能性を信じ、時に立ち止まり、悩みながらも、仲間と共に前進し続けることを期待しています。皆さまのJCライフが、常に希望に満ちた挑戦の機会であることをご祈念し、私のメッセージとさせていただきます。



佐藤 志学

会社名
(株)シリウス



青年会議所活動を振り返って

私が青年会議所（以下、JC）に入会してからの3年間は、まさに「挑戦と成長」の連続でした。入会当初は右も左も分からず、先輩方に支えられながら一つひとつの事業に取り組んでまいりました。そこでかつての同級生にも会うことができ、数十年ぶりの同窓会のような楽しみもあったこと、例会や委員会活動を通じて多くの仲間と出会い、地域のために何ができるのかを真剣に考える日々は、社会人としても一人の人間としても大きな学びの時間となりました。時には困難な場面もありましたが、仲間と力を合わせて乗り越えた経験は何よりの財産です。日常の仕事では得られない達成感や責任感、そして地域社会に貢献する喜びを実感できた3年間でした。ありがとうございました。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

JCでの活動を通じて最も強く感じたのは、「1人1人が地域をつくる」ということです。どんなに立派な理念や計画があっても、それを実行に移さなければ意味がありません。人の情熱と行動力であると学びました。仲間と議論を重ね、時には意見をぶつけ合いながらも、最終的に一つの方向に向かって進む過程に大きな意義を感じました。これは仕事にも通じるものがあり、仕事にも大きくつながりができたと思います。



JCプロフィール

- '21 会員拡大委員会 委員
- '22 次世代育成委員会 委員
- 岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 勉生
- '23 JCプランディング委員会 委員
- '24 わんぱく相撲構想推進委員会 委員
- '25 次世代育成委員会 委員



多様な価値観を持つ仲間と出会い、協働することで、自身の視野が広がり、人間的にも成長することができました。JCで学んだ「考動力」と「つながりの力」は、これから長い人生においても大切にしていかなければならないと思っております。



現役会員へのメッセージ



現役の皆さんには、今この瞬間の活動を全力で楽しんでほしいと心から思います。私は仕事が忙しくなかなか参加できない事がありました。JCの活動は40歳まで時間が限られます、その瞬間を楽しんでください。活動の一つひとつの経験が必ず自分を成長させ、将来に大きな力となります。仲間と共に汗を流し、意見を交わし、地域のために行動するその姿こそが、まさにJCの存在意義です。どうか一つの事業、一つの出会いを大切にしてください。そして、自分の殻を破るような挑戦を恐れずに続けてください。JCは、自分を変える最高の舞台です。卒業生の一人として、これからの方々の活躍を心より応援しております。地域と未来のために、どうか誇りを持って活動を続けてください。



照井 淳史

会社名

(株)岩手ホテルアンドリゾート
盛岡グランドホテル

青年会議所活動を振り返って

青年会議所（以下、JC）との関りを持ったのは2016年になります。ホテルの仕事でJCのお手伝いをする機会を頂き、気が付いたら9年間新年会や例会を見させていただきました。最初は不思議な団体だと思いました。本気で言い合はうし、そうかと思えば泣いている人までいました。今なら少しその気持ちもわかります。

その後、2021年に入会させていただき、当時を振り返ると皆さんよく言うように仲間を増やすため、

この町をよくするためなどの目標はなく、会社から言われるがままに活動をしておりました。そんな気持ちで始めたJC活動ですが、同期入会の皆さんとの活動が私のJCスイッチを入れてくれた気がします。

欲を言えば、もう少しやりたい役もありました。断らないで受けた役もありました。自分で掴みに行きたい役もありましたが、今卒業を迎えることで後悔をしているわけではありません。卒業してからでもできること、あの時やっていればという気持ちを繰り返さないことが今こうして振り返ることが出来ていることでJC活動をやってきて良かったなと心から思えます。

そこには多くのきっかけをくれるメンバーがいました、小倉委員長や小野寺理事長、大和田理事長、高橋潤永遠の専務、内山委員長に高橋事務局長、北條委員長も一応名前出しておきますが多くのLOMメンバー、岩手ブロック協議会をはじめとします出向メンバーに支えられたなと実感しております。充実した5年間を本当にありがとうございます！



JCプロフィール

- '21 会員拡大委員会 委員
- '22 事務局次長
わんぱく相撲プロジェクトチーム
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 墊生会員開発委員会 副委員長
- '23 岩手ブロック協議会 総務広報委員会 委員長
東北地区協議会 広報プランディング委員会 委員
- '24 次世代育成委員会 副委員長
未来構想特別委員会 委員
東北地区協議会 組織連携推進委員会 委員
- '25 監事
岩手ブロック協議会 事務局長
JCI日本 LOM開発委員会 委員



した。みんな、今のこの状況にどんな言葉をかけるのがベストなのかを考え、え～とか、あ～とかが出ないように練習を繰り返し自分の言葉になるように日々練習する、そんな人たちを間近に見て挨拶について考えるようになりました。だからこそ、伝えたいこと伝えないといけないことを真剣に考えるようになりました。なので当日の挨拶依頼はやめてください（笑）

現役会員へのメッセージ

JCの活動は関わり方が人それぞれだと思います。
しかしJC活動を続けていくなら考えて欲しいことがあります。



“今、あなたは本気で取り組んでますか？どんなことでもやり遂げた時、涙を流したことがありますか？”私は仕事でもJCでもここまで活動ができませんでした。だからこそ仲間と何かを成し遂げて欲しいと思います。40歳を超えて泣くことは恥ずかしいに変わるかもしれません。今、現役の時ならその涙がかっこいいと思えるそういう瞬間に私は多く出会いました。是非皆さんには“本気”で仕事にもJC活動にも挑んで欲しいと思います。

JCの文句を言う人にはJC活動の良さはわからないと思います、それでいいと思います。JCを卒業した方が、絶対に成長しているはずだから。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

JC活動から得られたもの、タイムマネジメント能力とパソコン機器の取り扱いです。

タイムマネジメントは何かを犠牲にするのではなく、全てを効率よく行うために努力することが身につきました。JC活動はやった分だけ自分の能力になると今でも思ってますし、能力の高いメンバーを間近に見て、やり方を盗めるのもJC活動の醍醐味でした。

そして、ラストイヤー監事をさせていただきました。一人の先輩から「お前みたいなサラリーマンが盛岡市内を代表する経営者の前で話す機会をもらえるなんて貴重な機会だ、普通ならお前の話を黙って聞いてくれる機会なんてねえから」と言われたことがあります。私は、挨拶はみんなその場しのぎでしていると思っていましたが間違いで





小野寺 龍

会社名
(株)白ゆり



青年会議所活動を振り返って

「小野寺君ちょっと今いい？」
2020年4月、勤務先の代表でもあり盛岡青年会議所（以下、盛岡JC）のOBでもある津田徳明先輩から声をかけられ社長室へ呼び出された瞬間でした。津田先輩から「私は今年で盛岡JCを卒業するから、小野寺君にぜひ引き継いで入会して欲しい」と話がありました。



その瞬間私が思ったことは「えー！めんどくせー」だったことを覚えています。しかし今振り返ってみると、2020年に入会しJC活動にドはまりしている自分がいました。それはなぜか。理由は単純で…
2020年 歳も職業も性格も全く異なる同期メンバーと出会い、毎晩のように深夜まで準備や設営、運営をした仮オリテン、卒業式。
2021年 JCとは何ぞやを教えていただいた当時の大和田祐輔専務理事、委員会運営のイロハを教えてくれた道下剛史委員長、事業運営を教えてくれた沼袋祐也副委員長。
2022年 その後の盛岡JCを支える人材が多く入会した会員開発委員会。
2023年 新型コロナウィルスが収束し、多くの対外事業を設営、運営。ドキドキしたビックブルズチアとのコラボ動画。
2024年 会員拡大の難しさ、メンバーを巻き込む難しさを知った一年。
2025年 子どもたちの心の育成を学び、遠征先の夜の楽しさを学び、いろんな意味でやり切ったラストイヤー。



JCの魅力は、全力で「話し合い、事業を行い、検証をして、飲んで、バカやって、腹抱えて笑って…」それに尽きます。この場を借りまして、入会を薦めていただきました津田徳明先輩へ心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

盛岡JCに入会し、様々な経験をしてきました。その全てが大切で自分の財産です。

特に2025年度は小学生の心の成長を支える次世代育成委員会の副委員長として、出向先では高校生の主権者教育育成に携わる委員として一年間全力で突っ走ってきました。

わんぱく相撲盛岡場所と男子・女子全国大会では子ども達が無邪気な相撲を楽しむ純粋な気持ち、その一方、10数秒で勝敗が決まる試合での真剣さ、友達を心の底から応援する思いやりの気持ちを子どもたちから学ぶことができました。



JCプロフィール

- '20 会員拡大委員会 委員
- '21 JCプランディング委員会 幹事
岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生
- '22 会員開発委員会 委員
わんぱく相撲プロジェクトチーム 委員
- '23 まちの未来創造委員会 副委員長
岩手ブロック協議会 連携推進委員会 委員
- '24 会員拡大委員会 副委員長
未来構想特別委員会 委員
- '25 次世代育成委員会 副委員長
未来構想特別委員会 委員
岩手ブロック協議会 岩手の未来創造委員会 委員



現役会員へのメッセージ

「置かれた場所で咲きなさい」
この書籍は、2012年頃日本で話題になりました。

私は新入会員、幹事、コアメン委員、副委員長、副委員長、副委員長という経歴です。私は理事や、常任理事はやらないという選択をしました。6年間の中で委員長をやらない自分は無責任じゃないか。私事により委員会や例会に参加できない時間が長い間は、アツイは全然活動していないやつだって皆思っているのかな。とネガティブになる瞬間がありました。アクティヴに活動できる人、できない人、できる時期、できない時期、人それぞれだと思います。



新入会員、現役会員の皆さん、そんな時は「置かれた場所で全力で咲けばいいんです」。人と比べる必要はないですし、その瞬間自分が最大限にできることをやることが大切です。役や、担当例会での役割を受けるのも勇気がいること、継続するのも勇気がいること、でも断ることは時にそれ以上に勇気がいることだと思います。委員会や、例会には参加できない、でも資料作成ならできる。土日は参加できない、でも平日なら参加できる。委員会も例会も1時間なら参加できる。少しでも盛岡JCに関わっていきたいという、その気持ちがあれば会社でも自宅でも運転中でも食事中でも寝ている時だってJC活動なのだと思います。

現役会員の皆さん、全力で残りのJC活動を楽しんでください。皆さまの益々のご活躍を心よりお祈りいたします。





田口 輝

会社名
(有)JJ プランニング



青年会議所活動を振り返って

私が青年会議所（以下、JC）に入るきっかけとなったのは、社長の指示で2019年に入会したことでした。2020年には新型コロナウイルスの影響で活動ができなかった中、それでも立ち上がり活動を始めた先輩の皆さまを見た時、いざれこんなふうに組織を牽引できるリーダーになりたいと感動したのを覚えています。



2021年は、副委員長として縁の下の力持ち役を仰せつかりましたが、ちょうど子どもも生まれ、活動を満足にできず、当時の委員長と幹事には大変ご迷惑をおかけしました。

2022年は、まさかの2年連続副委員長ということで、「じゃあ委員長やりなさいよ！」とたくさんの方に言われましたが、あくまで黒子に徹するスタイルで1年間プレずにやり遂げました。

2023年は、本会への出向の機会をいただき、主権者意識向上委員会の委員メンバーとして頑張らせていただきました。出向させていただくことにより、自身の成長、そして他LOMの皆さまと知り合うことができたのは本当に宝だと思います。



2024年は、同じ年の山内理事長が頑張るなら応援すると決めていたので、お声かけいただいた時はどんな役でも受けるつもりで即答しました。すると、委員長未経験の私がまさかの室長の役を仰せつかり、少し騙されたような気分になったのを覚えています。大変でしたが、成長の機会をくださりありがとうございました。

最後に2025年は監事として、客観的な事実を俯瞰的な視点で捉えるように気をつけながら、私なりに真剣に向き合ってきました。私のJC活動はスロースタートでしたが、最後は後悔なく駆け抜けることができました。今まで関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

JCプロフィール

- | | |
|-----|--------------------------------|
| '19 | 組織開発委員会 委員 |
| '20 | 国際社会創造委員会 委員 |
| | 岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生 |
| '21 | 地域開発委員会 副委員長 |
| '22 | 広報戦略委員会 副委員長 |
| '23 | JCプランディング委員会 委員 |
| | JCI日本 国家グループ 主権者意識向上委員会 委員 |
| '24 | 会員拡大室 室長 |
| | 未来構想特別委員会 委員 |
| | 岩手ブロック協議会 財政局 局員 |
| '25 | 監事 |
| | 第50代一発屋 |
| | 未来構想特別委員会 委員 |



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

入会後しばらくは、人前で話すのが苦手、パソコン操作が苦手、意見を出すのが苦手。今でも苦手なことだけですが、しっかりと目的意識を持って壁に立ち向かえば、達成できるんだということを学ばせてもらいました。自分の殻を破るためにといって、毎日苦手なことばかりやっていると、本当に逃げ出したくなるときも多々ありました。でも、そういう時こそ、JCでできた仲間が相談に乗ってくれたり、一緒にやってくれたり、背中を押してくれたりしました。振り返ってみると、盛岡JCという組織が、私のことを成長させてくれました。40歳になってもまだまだ半人前ですが、ここで得た経験を生かし、これから的人生を歩んでいきたいと思います。



現役会員へのメッセージ



表向きは「まちのため」「家族のため」なんて言つておきながら、実際には家族の前でJCの愚痴やネガティブな発言をしていませんか？家でそんな言葉ばかり言つていれば、やがて家族の理解が得られなくなるのは当然です。JCの愚痴は家庭に持ち込みます、せっかくできた仲間の前だけで！

どんなに辛くても、大変でも、40歳で終わってしまいます。限られた時間の中で、まちに対して、家族に対して、いかに前向きな変化を生んでいけるかを本気で取り組んでいってほしいと思います。その上で、仕事とJCと家庭のバランスをうまく取りながら頑張ってください。

皆さまの今後の活躍を心よりご期待申し上げ、影ながら見守させていただきます。



石井 優宇

会社名
(株)日本デスコ



青年会議所活動を振り返って

私が盛岡青年会議所（以下、盛岡JC）に入会したのは2015年でした。特に強く心に残っているのは、2016年のひとの繋がり創造委員会幹事としての活動です。この委員会では、台湾の羅東JCとの交流事業、地域最大の祭典であるさんざ踊りの運営、そしてOB交流会の企画・運営といった、文字通り「人とのつながり」を深める重要な事業を担わせていただきました。

この一年間は、私にとってJC活動の真髄を学ぶ時間となりました。国境を越えた友情を育む難しさや喜び、地域行事を支える責任感、世代を超えた連携の重要性など、普段の仕事では得られない、多角的な視点と実践的なコミュニケーション能力を養うことができました。

この初期の活動は非常に濃密で、私自身の時間とエネルギーを多く投入しました。この経験を通して、私はJCが持つ可能性の大きさを深く理解することができました。JC活動は、自発的行動を起こすことで、想像以上に多様な機会と出会いが得られる場であり、魅力ある団体であることを実感しております。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

盛岡JCでの活動から得た最も大きな経験は、「人間関係における本質的な学び」です。2016年の活動、特に羅東JCとの交流やOB交流会の運営を通じて、私は「立場や背景が異なる人々と、どうすれば一つの目標に向かって心を通わせられるか」という課題に真剣に向き合いました。



JCプロフィール

'15	会員開発委員会 委員 入会
'16	ひとの繋がり創造委員会 幹事
	岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 塾生
'17	広報渉外委員会 副委員長
'18	まちの未来創造委員会 委員
	JCI日本 褒章委員会 委員
'19	JCプランディング委員会 委員
'20	JCプランディング委員会 委員
'21	次世代育成委員会 委員
'22	次世代育成委員会 委員
'23	まちの未来創造委員会 委員
'24	広報戦略委員会 委員
'25	地域開発委員会 委員

国を越えた交流では、文化や言葉の違いを乗り越えるための忍耐と工夫を。OB交流会では、組織の歴史と未来をつなぐための敬意と配慮を学びました。これらは、単なるスキルではなく、私自身の価値観や振る舞いに深く影響を与え、その後の社会生活において大きな支えとなっています。

正直に申し上げると、入会から数年の活動で得られた学びが非常に大きかったため、その後の活動においては、初期ほどの熱量を継続することが難しく、参加頻度も減少してしまいました。

関係した方々には迷惑ばかりをおかけしました。
しかし、この初期の濃密な経験こそ、私がJCに入会しなければ得られなかった、かけがえのない財産です。



盛岡JCは、本気で取り組む人には自身の成長と地域社会への貢献という可能性を提供してくれる、貴重な場であると確信しています。

現役会員へのメッセージ

卒業を迎えるにあたり、盛岡JCの現役会員の皆さんに、心からの敬意とメッセージを送ります。

私が活動を通じて最も実感しているのは、「JCで培うつながりは、人生の土台となる」ということです。今、委員会活動を通じて得ている仲間や先輩・後輩との関係、そして地域との関わりは、きっと皆さまの未来を支える強固なネットワークとなります。

活動には波があることを、私の経験からもお伝えできます。しかし、たとえ一時的に活動への参加が難しくなることがあったとしても、過去に得た経験と、JCメンバーとの絆は消えることはありません。活動を続ける中で困難に直面したときこそ、基本に立ち返り、初期の「人とのつながり」を大切にする気持ちを思い出してください。

今後の盛岡JCが、時代の変化に対応しながら、地域に根差した「つながりの創造者」として、さらに発展されることを強く期待しています。皆さま一人ひとりの活動が、明るい盛岡の未来を築く力となるよう、卒業生として心から応援しています。どうぞ、皆さまのペースで、JC活動を楽しんでください。



山内 圭介

会社名
(株)カヴァーロ



青年会議所活動を振り返って

私は2014年に入会し、これまで12年間、青年会議所（以下、JC）に在籍してまいりました。入会当初は積極的に活動するタイプではありませんでしたが、委員会や例会に顔を出すたびに、どんな時も温かく迎え入れてくれる仲間の存在に支えられてきました。活動の本質も分からぬままの私でしたが、志高く活動する仲間たちの姿に触れ、その背中に憧れを抱きながら、少しずつ前向きに挑戦を重ねていきました。JCは、地域を牽引するリーダーを育む団体であり、役職や出向、国際交流、大会や遠征など、多くの成長の機会が用意されています。私もその中で、背伸びをしながら挑戦を続け、自らの成長を実感することができました。盛岡市内や岩手県内、また全国に仲間ができ、そんな仲間の前で挨拶する機会も増え、人前で堂々と話す力を身につけ、地域課題にも真剣に向き合えるようになりました。私はJCで多くのことを学び、仲間に刺激を与えられ、明日への活力を頂き、そして多くの仲間に恵まれ、支えられ後押しして頂けました。JCを通して頂いたご縁と学びの機会に感謝し、これからも様々な活動に尽力していきたいと思います。



盛岡青年会議所への想いと活動から得た経験

この団体には、自分自身を成長させるための多くの機会があります。しかしながら、その機会を掴むかどうかは自分自身の行動次第であり、逃げ道を探す努力をするのではなく、「どうすればできるのか」を本気で模索し、実行に移す姿勢が求められます。また、20歳から40歳までの幅広い世代が集う中で、どのような理想を描き、組織の理念を共有し、同じ方向を向いて活動していくかが何よりも重要です。個性豊かな仲間が集うこの組織において、人を巻き込みながら運動を展開していくこと、そして組織を運営していくことの難しさも学びました。物事をトップダウンで決めるのではなく、多角的な視点から協議を重ね、合意形成を図りながら意思決定していくことの大さを実感しました。さらに、理事長やブロック会長という重責を担わせていただいたことは、私にとって大きな成長の機会となりました。大きな組織をまとめるというこ



JCプロフィール

- '14 会員拡大委員会 委員
- '15 会員開発委員会 委員
- 岩手ブロック協議会 いわてJAYCEEアカデミー委員会 勉生
- '16 ひとの繋がり創造委員会 委員
- JCI日本 総務グループ 地域連携委員会 委員
- '17 未来の担い手育成委員会 委員
- 東北地区協議会 組織連携推進委員会 副委員長
- '18 組織の力拡大委員会 委員
- 岩手ブロック協議会 連携推進委員会 委員
- 組織開発委員会 委員
- '19 会員拡大委員会 副委員長
- '20 地域開発委員会 委員
- '21 次世代育成委員会 委員長
- '23 国際社会研究室 室長
- 東北地区協議会 東北ゼミナール特別委員会 委員
- '24 理事長
- '25 直前理事長
- 岩手ブロック協議会 会長
- 東北地区協議会 ブロック担当副会長

とは容易ではなく、自身の意思だけでなく、メンバー一人ひとりの考え方や想いを理解し、その上でトップとしての信念と方向性を明確に示していく必要があります。私はこの経験を通じて、自らの考えを明確に持ち、理想とする姿を示し続けることの大切さを学びました。



現役会員へのメッセージ

私たちはそれぞれ異なるきっかけでJCに入会したことだと思います。入会の理由や背景はさまざまでも、この組織が目指す理想は明確であり、多様な価値観や個性を持つメンバーが同じ方向を向いて活動することに大きな意義があります。仲間と共に学び合い、成長し合いながら、JC活動はもちろん、社業や地域社会においても発展を目指していくことが大切です。私は「妥協なき議論と良質なコミュニケーション」こそがこの組織の根幹であると考えています。そのうえで、メンバー同士が楽しみながら活動し、互いを高め合う環境を築いていくことが重要です。そして、どんなことにも挑戦する気持ちを忘れないでほしいと思います。できるかできないではなく、まずは覚悟を決めることが大切です。覚悟を持った人は考えが変わり、思考が変われば行動も変わります。行動によって経験が積み重なり、その経験こそがJCで得られるかけがえのない価値です。身の丈に合わない挑戦ではなく、少し背伸びをした挑戦を重ねることで大きな成長につながります。40歳までの限られた時間だからこそ、挑戦に意味があります。どのような40代を迎えるのかを思い描きながら、30代のうちに多くの挑戦を重ねてください。現役メンバーの今後の活躍を心より期待しております。そして私自身も、OBとして社会のために行動し続けてまいります。







一視同仁

～笑顔が満ち溢れるもりおか～

2025年度 卒業記念誌